

The logo for CMK, consisting of the letters 'C', 'M', and 'K' in a bold, orange, sans-serif font. The 'M' is stylized with a gap in the middle. The background features a stylized world map in shades of teal and purple, overlaid on a light blue and white background with a subtle grid pattern.

# CMK

**Invisible, but everywhere.**

## 第41期 事業報告書

平成12年4月1日から平成13年3月31日まで

**日本シイエムケイ株式会社**

証券コード：6958



代表取締役会長 中山 登      代表取締役社長 渡辺 英二

## 株主のみなさまへ

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

ここに第41期の事業報告書をお届けするにあたりまして、謹んでご挨拶かたがた当期の営業の概況につきましてご報告申し上げます。

当社は「発展と永続」を社是として事業を展開しておりますが、単に発展するだけでなく、それを維持継続していくことが企業の使命であり、株主のみなさま、顧客のみなさま、また社員のためにも大切なことであると考えております。第41期につきましては大規模な組織の改革を行ない「利益、キャッシュ・フロー、連結」重視の経営を推進してまいりました。中国の工場も生産を開始し、グローバル体制の強化を図ってまいります。また、本年2月にはお蔭様で創立40周年を迎えることができました。これも株主のみなさまの平素からのご支援の賜物であると、謹んで御礼申し上げます。つきましては、当期の株主配当金を、1株につき5円の普通配当に、1株につき2円の創立40周年記念配当を加え、7円（中間配当金とあわせて12円配当）とさせていただきます。

## 当期の業績について

ご高承のとおり、当期におけるわが国経済は、上半期におきましては、情報技術（IT）関連需要の世界的増加やアジア経済の回復により、輸出が増加基調となりましたものの、個人消費は雇用・所得環境の改善の遅れから緩やかな回復基調

にとどまりました。さらに下半期におきましては、海外経済の急激な減速などから景気回復テンポが鈍化し、停滞色の強い展開のまま推移いたしました。

当社の属するプリント配線板業界は、世界的に普及が進む携帯電話やパソコンの需要増加を背景に、上半期は好調に推移し、当社につきましても市場の追い風の中、好成績となりました。しかしながら、下半期におきましては、エレクトロニクス業界を牽引してきた携帯電話・パソコンなどの需要減による在庫調整により、急速に市場が冷え込み、大変厳しい経営環境となりました。

このような状況の下、当社は高付加価値製品を中心として積極的な営業展開に努めてまいりましたが、下半期における市場環境の影響を受けました結果、売上高は1,022億8千9百万円と前期比23億7千5百万円（前期比2.3%減）の減収となりました。

利益面につきましては、事業本部制導入による業績管理の強化、グループ挙げての生産性の向上、徹底した合理化によるコスト低減に努めた結果、経常利益は56億2千万円と前期比11億1千4百万円（前期比 24.7%増）の増益となりました。また、子会社株式及び投資有価証券の減損処理を行ない、特別損失に15億8千8百万円を計上いたしました結果、当期利益は20億2千2百万円と前期比5千7百万円（前期比2.8%減）の減益となりました。

また、連結業績につきましては、アジアを中心とした海外需要が総じて好調に推移したことにより、売上高は1,222億9千2百万円と前期比10億4千6百万円（前期比0.9%増）の増収となり、利益面につきましても海外需要の好調と国内における上半期の需要増による国内外関係会社両者の利益が寄与し、経常利益は86億1千6百万円と前期比37億3千2百万円（前期比76.4%増）の増益、また当期利益は41億8千2百万円と前期比30億3千5百万円（前期比264.8%増）の増益となりました。

厳しい経営環境ではありますが、株主のみなさまの信頼にお応えすべく、役員一同が率先垂範し、社員一丸となってあらゆる企業努力を重ねてまいり所存でございます。

何卒、変わらぬご支援、ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

平成13年 6月

代表取締役会長 中山 登  
代表取締役社長 渡辺 英二

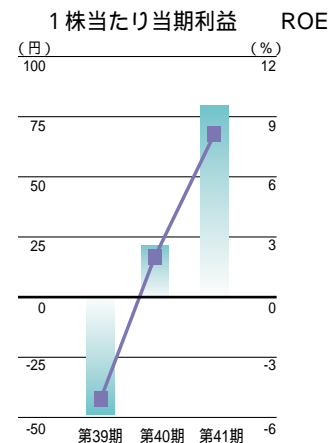
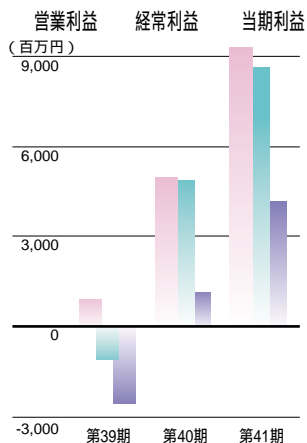
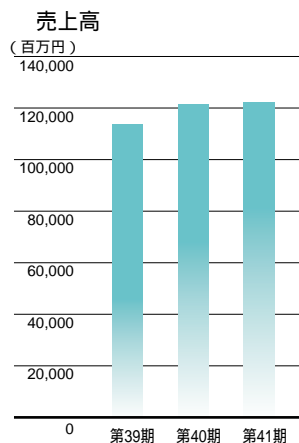
売上高 **122,292**百万円  
前年同期比**0.9%**増

営業利益 **9,284**百万円  
前年同期比**87.8%**増

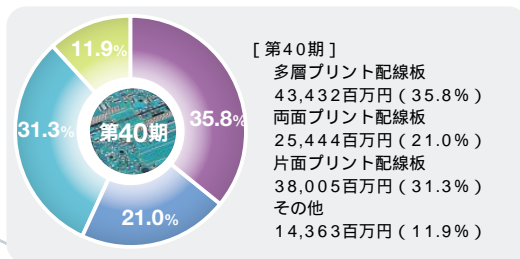
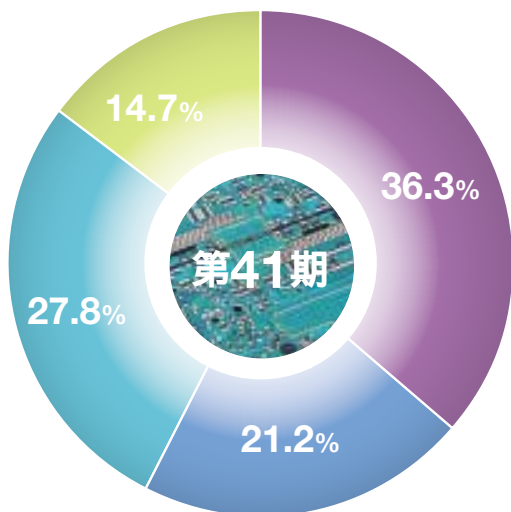
経常利益 **8,616**百万円  
前年同期比**76.4%**増

当期利益 **4,182**百万円  
前年同期比**264.8%**増

	第41期(当期)	第40期	第39期
	平成12年4月1日から 平成13年3月31日まで	平成11年4月1日から 平成12年3月31日まで	平成10年4月1日から 平成11年3月31日まで
売上高 (百万円)	122,292	121,245	113,448
営業利益 (百万円)	9,284	4,944	894
経常利益 (百万円)	8,616	4,884	1,064
当期利益 (百万円)	4,182	1,146	2,542
総資産 (百万円)	144,749	153,500	160,617
株主資本 (百万円)	52,822	49,820	48,166
1株当たり当期利益 (円)	80.36	22.21	49.20
1株当たり株主資本 (円)	1,005.62	966.42	932.45
ROE (%)	8.1	2.3	5.1
ROA (%)	6.5	3.3	0.8



品目別売上高情報



【第40期】  
 多層プリント配線板  
 43,432百万円 (35.8%)  
 両面プリント配線板  
 25,444百万円 (21.0%)  
 片面プリント配線板  
 38,005百万円 (31.3%)  
 その他  
 14,363百万円 (11.9%)

多層プリント配線板

44,333百万円 (36.3%)  
 カーエレクトロニクス分野や、パソコン周辺機器分野の堅調な需要により、前期比900百万円の増収となりました。

両面プリント配線板

25,947百万円 (21.2%)  
 カーエレクトロニクス分野や、アミューズメント分野、またデジタルカメラ等デジタル機器分野の需要増加により、前期比502百万円の増収となりました。

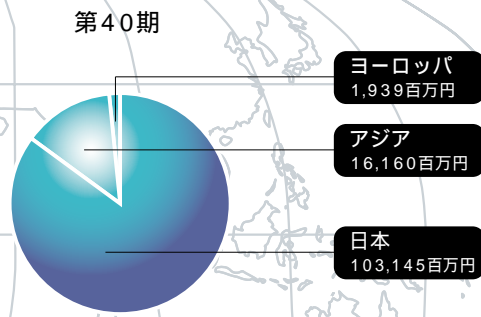
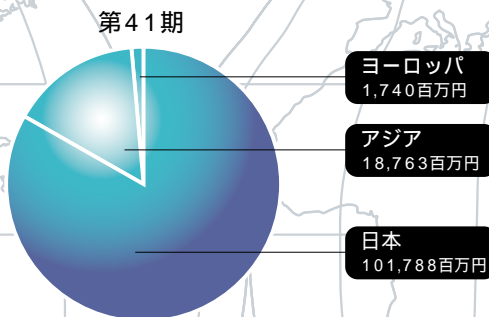
片面プリント配線板

34,008百万円 (27.8%)  
 アジア地域は好調だったものの、国内における需要の減少により、前期比3,996百万円の減収となりました。

その他

18,003百万円 (14.7%)  
 設計・試作・金型等の好調な需要により、前期比3,640百万円の増収となりました。

所在地別売上高情報



その電子製品の中に **CMK** があります。



### AV機器

(CDプレーヤー、MDプレーヤー、DVDプレーヤー、テレビ、ビデオ等)

片面プリント配線板または両面プリント配線板及び銀スルーホールプリント配線板などが主として使用されています。

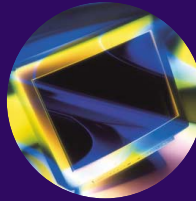


### 移動体通信機器

(携帯電話機、PHS等)

4~10層IVH多層プリント配線板、ALIVH Rなどのビルドアップ多層プリント配線板が主として使用されています。

(ALIVH®は松下電器産業株式会社の登録商標です)



### 情報機器

(パソコン・パソコン周辺機器等)

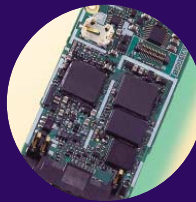
4~12層貫通多層プリント配線板、4~10層IVH多層プリント配線板、RF-1・RF-3(リジッドフレックス)などのビルドアップ多層プリント配線板が主として使用されています。



### 表示デバイス

(液晶、PDP、蛍光表示管等)

両面プリント配線板または4~12層貫通多層プリント配線板、4~10層IVH多層プリント配線板が主として使用されています。



### 半導体パッケージ用サブストレート

(リジッドタイプ・テープタイプ)

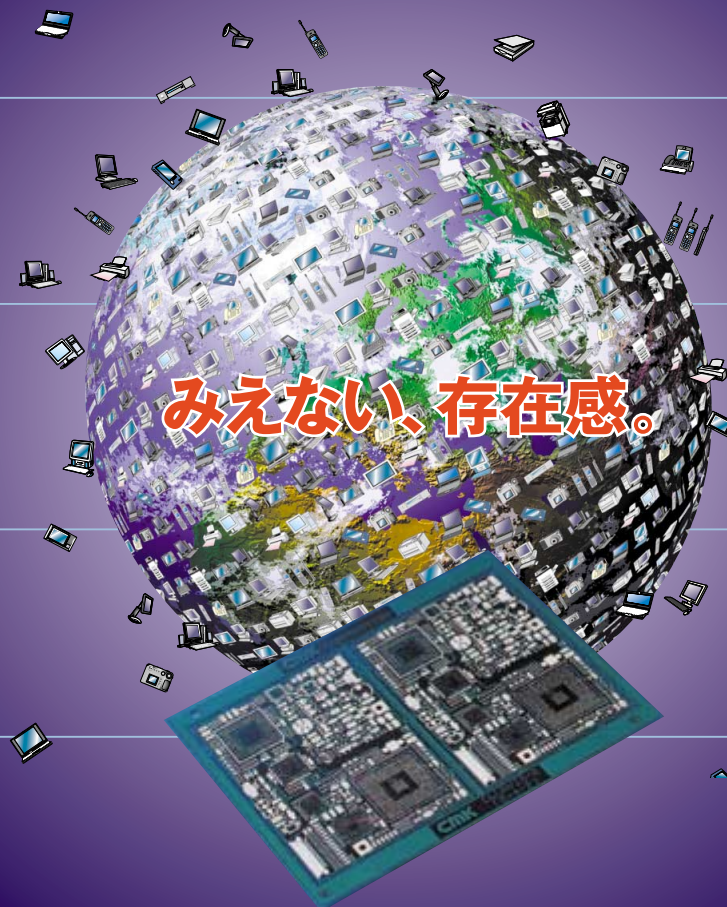
あらゆる電子製品の中枢となる半導体パッケージを支えるプリント配線板であり、CPU、DSP、メモリ、DRAM、SRAM、フラッシュメモリなどに使用されています。



### 自動車機器

(エンジンコントロールシステム、アンチロックブレーキシステム、エアバッグシステム、計器表示板、カーナビゲーションシステム等)

高信頼性・高耐熱の両面プリント配線板または多層プリント配線板などが主として使用されています。



みえない、存在感。

## 中期的な 経営戦略

### 1. 組織改革

CMKグループの発展と永続を実現するため、新たに2つの組織を設置いたしました。

#### 営業戦略開発室

営業部門に対し、新商品・新市場の開発及び新しいビジネスモデルの開発を通じ、スピードとソリューションを合言葉に、顧客ニーズを先取りした販売活動を直接的・間接的に支援いたします。

#### PMT (Package Method Technology) 事業推進室

国内プリント配線板事業の今後とその展開を考え、プリント配線板事業周辺を包括した事業プランの具現化を行ないます。

### 2. 積極的なグローバル展開

中期的に市場として魅力のある中国を中心とした積極的な海外展開を図ります。

#### 東莞塘廈新昇電子廠

本年3月にオープニングセレモニーを行ない、現在順調に稼動中であります。当社の強い営業力と中国での低コスト生産によりアジア地域での片面市場の中で、確固たる地位を築くべく努力してまいります。

#### 旗利得電子(東莞)有限公司

両面・貫通プリント配線板事業での初の海外拠点として、当社の強い営業力を発揮し、今後の発展に邁進する所存です。

#### 希門凱電子(無錫)有限公司

海外初のビルドアップ多層プリント配線板の工場として、来春稼働予定です。

国内におけるプリント配線板市場は、今後ますます高密度化し、従来の汎用品については、多層プリント配線板も含め海外展開が加速されるものと思われれます。当社もこの流れを見失うことなく、積極的な海外展開を行なっていく所存です。

### 3. 徹底した合理化の推進と、 高付加価値品への事業構造転換の推進

従来商品の国内市場を考慮し、事業所の見直しや再編成を進め、徹底した合理化を推進してまいります。また経営資源を極力、選択と集中により高付加価値商品群へ投入し、さらなる発展に邁進する所存です。

### 4. 将来の利益商品の開発

「発展と永続」を可能にするための、利益商品の開発に注力してまいります。プリント配線板は半導体と相関して高密度化するものと思われ、当社としても技術トレンドを見失うことなく、高性能ビルドアップ多層プリント配線板や、次世代半導体パッケージ用サブストレートの開発に邁進する所存です。また、新商品だけではなく、従来商品についてもコストダウンや付加価値アップのための開発に注力してまいります。

### 5. キャッシュ・フローを意識したグループ経営の徹底

キャッシュ・フローを常に意識し、連結重視の経営のもと、資産・負債・資本のバランスがとれた経営を徹底いたします。また、将来のキャッシュ・フローを捻出するための投資は積極的に行ない、自己資本の強化に邁進する所存です。

### 6. 地球環境保護の推進

CO2の削減や省エネルギー対策、また、環境に配慮した商品の開発に注力し、良き企業市民としての社会的責任と企業価値の向上に邁進する所存です。

< 平成16年3月期目標 >

## 連結ROA 10%を目指します。

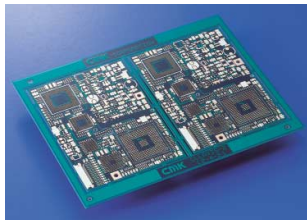
$$\text{ROA} = \text{総資本事業利益率} = \frac{\text{事業利益}}{\text{売上高}} \times \frac{\text{売上高}}{\text{総資産}}$$

(利益率) (回転率 = 経営効率)

事業利益 = 営業利益 + 受取利息・受取配当金

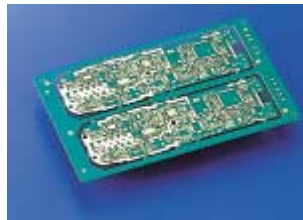
高付加価値製品  
の一層の強化  
＜製品ラインナップ＞

ビルドアップ多層プリント配線板



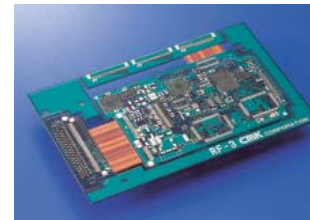
CLLAVIS シリーズ

レーザー工法など最新の技術を用い高密度・高集積化した多層プリント配線板の一種であり、ノートパソコン等の情報端末機器等に適しています。



ALIVH<sup>®</sup>シリーズ

初の100gを切る携帯電話機の開発に大きく貢献し、設計の自由度が高いなどの評価を受け、小型・軽量を要求される携帯電話機や携帯AV機器に多く採用されています。



RFシリーズ

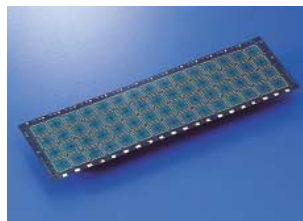
柔軟タイプのプリント配線板と硬質のプリント配線板を複合一体化させた多層プリント配線板であり、一部を折り曲げたり、ねじったりすることができ、デジタルカメラ等の情報機器に使用されています。

IVH 多層プリント配線板



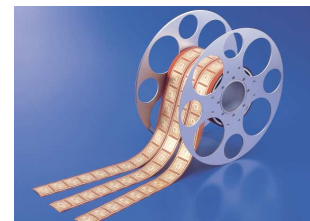
部品の実装効率を高め、配線密度の向上を可能とする多層プリント配線板で、携帯電話機・携帯情報端末に大量に使用されています。

半導体パッケージ用サブストレート



リジット・サブストレート

半導体パッケージ部品と言われる大変精度の高い分野でも、プリント配線板はその進化した姿として、薄型・小型で硬質の樹脂配線板（リジットタイプ）が採用されています。



テープ・サブストレート

半導体パッケージ部品用のテープタイプで、超微細回路が可能な薄型のテープ・サブストレートであり、携帯電話機・ゲーム機・パソコン等に使用されています。

“ E・spec ”

(環境配慮型プリント配線板仕様)



ハ口ゲンフリー片面プリント配線板



E・specマーク  
(当社、登録商標であります。)

E・specとは?

環境にやさしい製品を広めてゆくために、自社評価基準を設定、これをクリアした製品を環境仕様“E・spec”製品とし、環境ラベル

(E・specマーク)を付与し、環境配慮型製品として差別化、継続的に環境負荷を低減してまいります。

## グループ経営の重視 積極的な海外展開



ジェイティシイエムケイ(株)  
新潟県長岡市  
(ISO9002・14001認証取得)  
日本たばこ産業(株)との合併会社で、両面・多層プリント配線板を製造しています。



シイエムケイ蒲原電子(株)  
新潟県村松町  
(ISO9002認証取得)  
高精度を求められる自動車関連用の両面・多層プリント配線板などを製造しています。



新潟サテライト工場  
新潟県聖籠町  
(ISO9002・14001認証取得)  
構内に日本シイエムケイニガタ(株)、日本シイエムケイマルチ(株)など、両面から高機能多層まで高性能のプリント配線板を製造しています。

## グローバルに展開するCMKグループ戦略

### グループ経営の重視

CMKグループの魅力は、何と言ってもその豊富な商品のラインナップとその生産テクノロジーにあります。それを強固に支えるのが国内のグループ会社であり、海外への展開にもその技術が活かされています。今、CMKグループは連結経営を重視し、グループ全体のキャッシュ・フローを意識した経営を展開し、機動的に組織の改革を進め、ユーザーニーズにいち早く対応すべく、体制を強化しています。

### [ その他の主な国内事業所及び関係会社 ]

本社  
東京都新宿区  
SEセンター  
埼玉県三芳町  
エスイプロダクツ(株)  
埼玉県三芳町  
シイエムケイメカニクス(株)  
埼玉県吉田町  
シイエムケイハイテックス(株)  
埼玉県東松山市

シイエムケイドリリング(株)  
群馬県伊勢崎市  
(株)山梨三光  
山梨県韮崎市  
(株)石塚製作所  
神奈川県相模原市  
ワコーエレクトロニクス(株)  
宮城県白石市



事業所  
営業所



KIBANセンター工場  
群馬県伊勢崎市  
(ISO9002・14001認証取得)  
片面プリント配線板及び多層プリント配線板の内層回路を製造しています。



Gステーション工場  
群馬県伊勢崎市  
(ISO9002・14001認証取得)  
両面・多層プリント配線板を製造しています。



技術センター工場  
群馬県伊勢崎市  
研究・開発の中核拠点及び半導体パッケージ用サブストレートを製造しています。



(株)シイエムケイ回路設計センター  
埼玉県三芳町  
(ISO9001認証取得)  
あらゆるプリント配線板の高度な設計・新技術の提供を最新鋭のシステムとスタッフで提供します。





— CMK EUROPE N.V.  
ベルギー王国  
(ISO9002・14001認証取得)  
片面・両面・銀スルーホールプリント配線板を製造・販売しています。



— CMKS (MALAYSIA) SDN. BHD.  
マレーシア  
(ISO9002認証取得)  
片面・両面・銀スルーホールプリント配線板を製造・販売しています。



— 東莞塘廈新昇電子廠  
中華人民共和国広東省東莞市  
片面・銀スルーホールプリント配線板を製造しています。

[ その他の海外関係会社 ]  
旗利得電子(東莞)有限公司  
中華人民共和国広東省東莞市  
希門凱電子(無錫)有限公司  
中華人民共和国江蘇省無錫市

[ 海外関係会社営業所 ]  
CMK SINGAPORE(PTE.)LTD.  
BANGKOK REPRESENTATIVE OFFICE  
タイ王国  
CMKS(MALAYSIA)SDN. BHD.  
PENANG SALES OFFICE  
マレーシア  
CMKS(MALAYSIA)SDN. BHD.  
KUALA LUMPUR OFFICE  
マレーシア  
CMKS(HONGKONG)CO., LTD.  
中華人民共和国  
新昇電子(香港)有限公司  
中華人民共和国  
Nippon CMK Corporation(U.S.A.)  
アメリカ合衆国



## オンライン・世界ネットワークにより 生産の海外シフトに応じています。

### 積極的な海外展開

エレクトロニクス関連メーカーの海外シフトが加速するにつれ、海外でのプリント配線板需要も増加の一途をたどっています。こうした状況に応え、CMKグループでは国内においては生産の効率化・高付加価値化を追求するとともに、海外での生産を積極的に拡大しています。80年代初頭にはシンガポールに生産子会社を設立し、マレーシアにも業界に先駆けて進出、ベルギーでは欧州の今後の需要増大を見据えて新工場を稼働させています。また2001年3月に中国での生産を開始いたしました。

一方、国内外の完全生産分業を実現し、海外需要はすべて海外生産でまかなうという基本戦略のもとに、91年には海外関係各社への材料供給会社をマレーシアに設立、またインドネシアで金型生産を開始するなど、海外における一貫生産の拡充に向けて環境整備を推進しています。



— CMK SINGAPORE (PTE.) LTD.  
シンガポール共和国  
(ISO9002認証取得)  
片面・両面プリント配線板を製造・販売しています。



— P.T. CMKS INDONESIA  
インドネシア共和国  
(ISO9002認証取得)  
片面プリント配線板を製造しています。

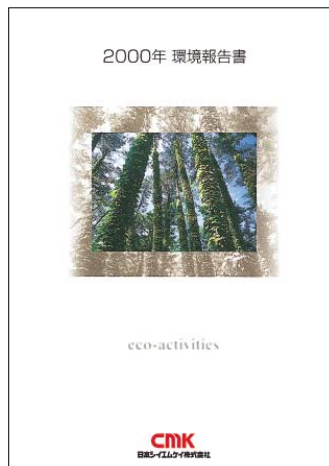
事業所  
営業所

## 地球環境 保護

人がそうであるように、産業もこの地球と共生し、環境との調和を保って発展していく必要があることは言うまでもありません。日本CMKにとって「地球環境保全」は重要な経営テーマであり、企業市民として当然の責務であると考えます。

当社は、1995年に地球環境委員会を設置し、1998年には全社的な環境推進活動のために、環境推進委員会を設置、さらに環境法規制、省資源・省エネ、廃棄物リサイクル、環境技術などの各専門部会を設け、活動をスタートいたしました。同年「CMK環境理念」、「環境基本方針」を策定、環境行動計画を作成し、全員参加による環境保全活動を永続的に推進する姿勢により、各事業所にて「ISO14001」を順次取得中です。

また、1999年度には環境保全への取り組みを「環境報告書」にまとめて広く開示いたしました。私たちはこれからも「環境にやさしい企業活動」を追求することで、「環境にやさしい製品」を生み出す努力を続けてまいります。



### ISO14001 認証取得計画

CMKでは環境マネジメントシステムは環境経営の基礎土台であると考え、2003年度中までに全グループ（海外含む）で順次ISO14001認証取得を目指しています。

## 日本CMK環境憲章

近年における著しい人口増加、事業活動及び便利さの追求などにもとない地球環境へのバランスが崩れ、新しい価値観が求められて来ています。そして循環型社会に向けて継続的改善を図ることが叫ばれ、この流れを強く認識し、事業経営の重大施策の一つとしてここにCMK環境憲章を明らかにします。

### 環境理念

日本CMKは、「良き企業市民として、その社会的責任を果たす」という経営理念の一つに基づき地球環境にやさしい企業活動をあらゆる面で推進し、環境との調和を図るよう行動します。

### 環境基本方針

日本CMKは、地球環境との調和を図り、かけがえのない自然の恵みを護ることそれは、今を生きる私たちの責任だと考え、全員参加で環境保全活動の質的向上と継続的改善を推進します。

1. 日本CMKグループの環境推進体制を整備し、環境への取り組みを明らかにして推進する。
2. 環境に関する法令、規制の遵守と企業活動における源流管理を徹底する。
3. 限りある資源を大切に、省エネルギー、リサイクルの推進及び廃棄物の削減を図る。
4. 企業活動において環境アセスメントを実施し、環境負荷の低減と有害物質の代替を推進する。
5. 環境監査を実施し、環境管理活動の確認と維持向上に努める。
6. 緑豊かな自然と景観を大切にすると共に地域環境への共生に努める。
7. 環境教育による意識の高揚と広報活動を積極的に推進する。

### ISO14001認証取得状況

事業所名	取得年月	取得年月
KIBANセンター工場	1998年 9月	
新潟サテライト工場	1999年 8月	
(株)石塚製作所	1999年12月	
CMK EUROPE N.V.	2000年10月	
Gステーション工場	2000年10月	
ジェイティシイエムケイ(株)	2000年12月	

## 中国での生産開始！

### 旗利得電子（東莞）有限公司の 経営権取得

2000年10月、当社は中華人民共和国広東省東莞市に所在する旗利得電子（東莞）有限公司の経営権を取得いたしました。同社は両面、多層貫通プリント配線板の製造会社で月産能力20,000m<sup>2</sup>です。

### 東莞塘廈新昇電子廠 本格量産スタート

当社の中国におけるプリント配線板生産委託先である東莞塘廈新昇電子廠（広東省東莞市）は2001年3月から本格稼働し、3月16日現地で落成式が挙行されました。同社は土地30,000m<sup>2</sup>、建屋16,000m<sup>2</sup>の工場で、第一期の計画として月産能力片面プリント配線板90,000m<sup>2</sup>、銀スルーホールプリント配線板25,000m<sup>2</sup>の能力を持ち、従業員は約200名となっています。



### 中国ビルドアップ新工場7月着工

中国における第3の生産拠点となるビルドアップ多層プリント配線板を生産予定の新工場建設に着手いたしました。新会社名は「希門凱電子（無錫）有限公司」で、所在地は江蘇省無錫市です。

来年春には稼働予定で、月産能力10,000m<sup>2</sup>で携帯端末を始め情報通信機器向けのプリント配線板を生産する計画です。

将来中国が世界の携帯端末生産の中心となることが予想される中、グローバル戦略を掲げる当社としては、他社に先駆けて現地生産を推進いたします。



### 韓国半導体パッケージ メーカーとの提携

当社は2000年7月、韓国有数の半導体パッケージ企業の(株)シムテックと技術協力基本協定を締結し、2001年3月に次世代マイクロプロセッサなどの先端半導体パッケージに採用される8層ビルドアップ多層プリント配線板（モジュール基板）の共同開発に合意いたしました。

## 連結貸借対照表

< 連結貸借対照表 >			( 単位 : 百万円 )	
	第 4 1 期 平成 13 年 3 月 31 日現在	第 4 0 期 平成 12 年 3 月 31 日現在	第 4 1 期 平成 13 年 3 月 31 日現在	第 4 0 期 平成 12 年 3 月 31 日現在
( 資産の部 )				
流動資産	59,410	64,736		
現金及び預金	13,968	18,219		
受取手形及び売掛金	33,598	33,930		
たな卸資産	9,916	10,563		
繰延税金資産	537	569		
その他の流動資産	1,536	1,640		
貸倒引当金	147	187		
固定資産	85,339	87,350		
有形固定資産	68,584	70,026		
建物及び構築物	30,497	32,307		
機械装置及び運搬具	22,779	21,898		
土地	14,151	14,181		
その他の有形固定資産	1,154	1,638		
無形固定資産	1,759	1,076		
投資等	14,995	16,247		
投資有価証券	9,892	11,140		
繰延税金資産	1,088	743		
その他の投資等	4,070	4,383		
貸倒引当金	57	20		
為替換算調整勘定		1,413		
資産合計	144,749	153,500		
( 負債の部 )				
流動負債			44,108	49,039
支払手形及び買掛金			12,423	16,818
短期借入金			17,278	20,607
未払金			7,495	4,858
未払法人税等			1,911	2,552
賞与引当金			1,343	1,308
その他の流動負債			3,656	2,893
固定負債			43,345	51,333
社債			20,000	20,000
転換社債			12,408	15,000
長期借入金			9,310	15,109
その他の固定負債			1,627	1,223
負債合計			87,454	100,372
( 少数株主持分 )				
少数株主持分			4,472	3,306
( 資本の部 )				
資本金			16,117	14,821
資本準備金			15,874	14,578
連結剰余金			24,037	20,422
その他有価証券評価差額金			222	
為替換算調整勘定			2,059	
自己株式			1,370	1
資本合計			52,822	49,820
負債、少数株主持分及び資本合計			144,749	153,500

## 連結損益計算書 / 連結キャッシュ・フロー計算書

### < 連結損益計算書 >

	(単位：百万円)	
	第41期 平成12年4月1日から 平成13年3月31日まで	第40期 平成11年4月1日から 平成12年3月31日まで
売上高	122,292	121,245
売上原価	101,877	104,608
売上総利益	20,415	16,637
販売費及び一般管理費	11,130	11,693
営業利益	9,284	4,944
営業外収益	1,496	2,617
営業外費用	2,164	2,678
経常利益	8,616	4,884
特別利益	267	304
特別損失	1,662	1,118
税金等調整前当期利益	7,220	4,070
法人税、住民税及び事業税	3,070	2,955
法人税等調整額	508	344
少数株主利益	476	313
当期利益	4,182	1,146

### < 連結キャッシュ・フロー計算書 >

	(単位：百万円)	
	第41期 平成12年4月1日から 平成13年3月31日まで	第40期 平成11年4月1日から 平成12年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	14,471	15,945
投資活動によるキャッシュ・フロー	7,068	7,516
財務活動によるキャッシュ・フロー	10,799	10,544
現金及び現金同等物に係る換算差額	974	537
現金及び現金同等物の減少額	4,371	2,653
新規連結に伴う現金等の増加額		446
現金及び現金同等物の期首残高	18,505	20,712
現金及び現金同等物の期末残高	14,134	18,505

## 企業集団の状況 主要な連結子会社

シイエムケイメカニクス株式会社
シイエムケイハイテックス株式会社
シイエムケイドリリング株式会社
日本シイエムケイマルチ株式会社
株式会社シイエムケイ回路設計センター
エスイープロダクツ株式会社
日本シイエムケイニイガタ株式会社
シイエムケイファイナンス株式会社
株式会社山梨三光
シイエムケイ蒲原電子株式会社
ジェイティシイエムケイ株式会社
株式会社石塚製作所
ワコーエレクトロニクス株式会社
CMK EUROPE N.V.
CMK SINGAPORE(PTE.)LTD.

< 単独貸借対照表 >

第41期  
平成13年3月31日現在

第40期  
平成12年3月31日現在

(単位：百万円)  
第41期  
平成13年3月31日現在

第40期  
平成12年3月31日現在

(資産の部)	第41期 平成13年3月31日現在	第40期 平成12年3月31日現在	(負債の部)	第41期 平成13年3月31日現在	第40期 平成12年3月31日現在
流動資産	45,998	50,436	流動負債	15,710	18,963
現金及び預金	7,615	10,766	支払手形及び買掛金	6,913	9,561
受取手形及び売掛金	28,648	30,323	短期借入金	3,912	4,657
たな卸資産	5,484	6,197	未払金	1,812	1,833
短期貸付金	2,262	1,277	未払法人税等	1,308	1,630
繰延税金資産	371	353	賞与引当金	688	660
その他の流動資産	1,738	1,707	その他の流動負債	1,075	619
貸倒引当金	123	188	固定負債	38,313	44,365
固定資産	65,817	66,394	社債	20,000	20,000
有形固定資産	37,835	39,509	転換社債	12,408	15,000
建物及び構築物	18,895	20,099	長期借入金	4,592	8,594
機械及び運搬具	6,475	6,165	その他の固定負債	1,313	770
土地	11,998	11,975	負債合計	54,023	63,328
その他の有形固定資産	466	1,267	(資本の部)		
無形固定資産	1,035	446	資本金	16,117	14,821
投資等	26,945	26,438	法定準備金	16,812	15,449
投資有価証券	10,530	10,756	資本準備金	15,874	14,578
自己株式	1,368		利益準備金	937	871
長期貸付金	2,977	3,767	剰余金	24,622	23,232
繰延税金資産	1,269	644	任意積立金	21,800	19,800
その他の投資等	10,850	11,307	当期末処分利益	2,822	3,432
貸倒引当金	51	36	(うち当期利益)	(2,022)	(2,079)
			評価差額金	239	
			その他有価証券評価差額金	239	
資産合計	111,815	116,831	資本合計	57,791	53,503
			負債・資本合計	111,815	116,831

< 単独損益計算書 >

第41期  
平成12年4月1日から  
平成13年3月31日まで

(単位：百万円)  
第40期  
平成11年4月1日から  
平成12年3月31日まで

< 利益処分 >

第41期  
平成12年4月1日から  
平成13年3月31日まで

(単位：百万円)  
第40期  
平成11年4月1日から  
平成12年3月31日まで

売上高	102,289	104,664	当期末処分利益	2,822	3,432
売上原価	90,247	93,986	これを次のとおり処分します。		
売上総利益	12,041	10,677	利益準備金	45	40
販売費及び一般管理費	6,898	7,341	株主配当金	367	257
営業利益	5,143	3,336	1株につき	7円	5円
営業外収益	2,535	3,697	(うち普通配当)	(5円)	(5円)
営業外費用	2,058	2,527	創立40周年記念配当)	(2円)	
経常利益	5,620	4,506	取締役賞与金	55	45
特別利益	51	74	任意積立金	1,462	2,257
特別損失	2,227	1,007	中間配当積立金	262	257
税引前当期利益	3,444	3,573	別途積立金	1,200	2,000
法人税、住民税及び事業税	2,237	1,748	次期繰越利益	892	831
法人税等調整額	815	255			
当期利益	2,022	2,079			
前期繰越利益	831	747			
過年度税効果調整額		742			
自己株式消却額		111			
中間配当積立金取崩額	257	258			
中間配当額	262	258			
中間配当に伴う利益準備金積立額	26	25			
当期末処分利益	2,822	3,432			

株式の状況

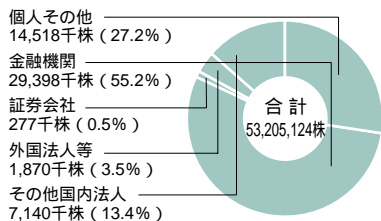
会社が発行する株式の総数	199,871,000株
発行済株式の総数	53,205,124株
株主数	4,567名
大株主(上位10名)	

株主名	当社への出資状況	
	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	4,881	9.17
中山登	3,820	7.17
第一生命保険相互会社	2,345	4.40
株式会社日本興業銀行	2,258	4.24
住友ベークライト株式会社	1,896	3.56
松下電工株式会社	1,860	3.49
共同受託者東京信託銀行株式会社・ 日本信託銀行株式会社(退職給付信託口)	1,822	3.42
関直彦	1,631	3.06
株式会社さくら銀行	1,549	2.91
株式会社東京都市民銀行	1,545	2.90

- (注) 1. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)の持株数のうち、投資信託など当社が信託を受けている株式を除く実質所有株式数は17万9千株(持株比率0.3%)であります。
2. 中山登氏の持株数のうち1,000千株を平成12年9月25日付で有限会社中山企画へ譲渡した旨の報告を受けております。その結果、平成12年9月25日現在中山登氏の持株数は3,820千株、有限会社中山企画の所有する持株数は1,200千株(持株比率2.2%)となりました。
3. 株式会社日本興業銀行は、株式会社富士銀行及び株式会社第一勧業銀行とともに三行共同の株式移転による完全親会社「株式会社みずほホールディングス」を平成12年9月29日付で設立し、従来当社が保有していた株式会社日本興業銀行及び株式会社富士銀行の株式は、株式会社みずほホールディングスの株式として773株(額面金額50,000円・持株比率0.0%)保有しております。また、株式会社富士銀行が平成13年3月31日現在所有している持株数は1,483千株(持株比率2.7%)であり、株式会社第一勧業銀行が同日現在所有している持株はありません。
4. 共同受託者東京信託銀行株式会社・日本信託銀行株式会社退職給付信託口1,822千株は、日立化成工業株式会社の信託財産であります。
5. 株式会社さくら銀行は株式会社住友銀行と平成13年4月1日付で合併し、株式会社三井住友銀行となりました。なお、平成13年3月31日現在の株式会社住友銀行の持株数は964千株(持株比率1.8%)であります。

株式分布状況

<持株数別株式分布の状況>



会社の概要

商号	日本シイエムケイ株式会社 (証券コード6958 日本CMK)
設立	昭和36年2月25日
資本金	161億1,723万8,020円
本社所在地	東京都新宿区西新宿 六丁目5番1号
従業員数	2,158名 (うち出向者500名を含み、受入 出向者35名を除いています。)

役員

代表取締役会長	中山登
代表取締役社長	渡辺英二
取締役副社長	関亀春
専務取締役	佐藤知正
常務取締役	兼本国昭
常務取締役	関茂之
常務取締役	中山高広
常務取締役	安間進
取締役	高井建郎
取締役	竹本正和
取締役	西国男
取締役	真中護
常勤監査役	真乗坊弘章
常勤監査役	渡辺孝
監査役	高橋秀明
監査役	本城光雄

## 株主メモ

決算期日	毎年3月31日
定時株主総会	決算期の翌日から3か月以内に開催
配当金支払株主確定日	毎年3月31日及び中間配当金の支払を行うときは9月30日
名義書換停止期間	(1) 毎年4月1日から4月30日まで (2) 上記のほか必要があるときは、予め公告した一定期間
名義書換手数料	無料
公告掲載新聞	日本経済新聞
名義書換代理人 事務取扱場所	〒103-8202 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社 電話(03)3668-9211(代)
同 取 次 所	日本証券代行株式会社 各支店出張所



〒163-1388 東京都新宿区西新宿六丁目5番1号  
新宿アイランドタワー43F  
TEL.03-5323-0231 (大代表)



<http://www.cmk-corp.com>

## おかげさまで40周年

### CMKの主なあゆみ

昭和36年	2月	中央銘板工業株式会社(東京都杉並区)設立、主にネームプレートを製造販売。
昭和38年	3月	プリント配線板の生産を開始。
昭和42年	2月	本社工場(現SEセンター、埼玉県三芳町)を開設。
昭和45年	4月	プリント配線板の専門メーカーとなる。
昭和49年	2月	群馬工場(現Gステーション工場、群馬県伊勢崎市)完成。
昭和50年	4月	プリント配線板業界で初めてCADシステムを導入。
昭和55年	11月	CMK SINGAPORE (PTE.) LTD. (シンガポール)を設立。
昭和56年	6月	技術センター(現技術センター工場、群馬県伊勢崎市)完成。
昭和59年	1月	日本シイエムケイ株式会社へ商号変更。
昭和60年	7月	東京証券取引所市場第二部に上場。
昭和61年	12月	KIBANセンター(現KIBANセンター工場、群馬県伊勢崎市)完成。
昭和62年	2月	CMK EUROPE N.V. (ベルギー)を設立。
平成元年	9月	東京証券取引所市場第一部に指定替え。
平成元年	11月	CMKS (MALAYSIA) SDN.BHD. (マレーシア)を設立。
平成2年	2月	新潟サテライト(現新潟サテライト工場、新潟県聖籠町)完成。
平成6年	8月	P.T. CMKS INDONESIA (インドネシア)を設立。
平成7年	10月	本社を埼玉県入間郡三芳町より東京都新宿区へ移転。
平成9年	12月	CMKS (HONG KONG) CO., LTD.を設立。
平成12年	10月	旗利得電子(東莞)有限公司(中国)の経営権取得。
平成13年	2月	新昇電子(香港)有限公司(中国)を設立。
平成13年	3月	東莞塘廈新昇電子廠(中国)竣工。